

映画『仕掛人・藤枝梅安』製作における
新型コロナウイルス感染対策ガイドライン

日本映画放送(株)
東映(株)京都撮影所

本ガイドラインは「日本映画放送のオリジナル製作事業における新型コロナウイルス感染対策ガイドライン」と「京撮・業務のコロナ予防ガイドライン」に基づき感染防止対策の原則と留意点をまとめたものである。

映画「仕掛人・藤枝梅安」は撮影期間が3か月近くの長期に及ぶこと、またオミクロン株の拡大など最新の感染状況などを鑑み、本ガイドラインは随時更新していくものとする。

はじめに

**責任感から体調不良であってもそれを隠して撮影に参加するような
無理を絶対にしないこと！**

感染者が出てその人を責めたり、非難したり、差別することのないように！

全キャスト・スタッフ、作品のために勇気をもって報告を！

(1) 大前提として

- ①三密を避ける。1. 「密閉」換気の悪い密閉空間。2. 「密集」多数が集まる密集場所。
3. 「密接」間近で会話や発声する密接場面。
- ②マスク必着のこと。無い方は受付でマスクを配布します。ただし、熱中症予防のため、
ソーシャルディスタンスを確保出来る場合は、時と場所によってはマスクをはずしてもよい。
- ③手洗い・うがいの励行。手洗いと共にアルコール消毒を常に心がける。
- ④朝必ず検温して、37.5℃以上もしくは明らかに平熱より高い場合、また体調不良の場合は、出勤就業せず、上長に連絡のうえ、医療機関に相談すること。発熱・体調不良は、その日を含めて原則5日間自宅待機。

⑤家族・同居者の発熱・体調不良が発生した場合、その旨速やかに上長に報告・相談して指示に従うこと。その場合も指示があるまで自宅待機。
- ⑥守衛所受付では、全員サーモグラフィを通過すること。

(2) 出勤時について

- ・全スタッフ・キャストは、毎朝検温し、体調の管理に努めること。

- ・発熱及び体調不良のスタッフは、すぐに上長とプロデューサー、製作担当に連絡すること。
- ・連絡を受けたプロデューサー、製作担当は、作業の補てん、遅延に関する対策を講じること。
- ・キャストでタクシーや自車で入所し、サーモグラフィを通過していない方は、演技事務所にて検温してもらうこと。
- ・監督ならびにキャストに関して、発熱、体調不良の者が出た場合、製作担当はプロデューサーへ連絡し、その日の撮影を中止するのか等、善後策を講じること。

(3) スタッフルームについて

- ・プロダクション棟の大部屋を使用のこと。
- ・三密を避け、席の間隔を空けること。
- ・窓を開け換気すること。
- ・話をする場合は十分に距離を保つこと。

(4) 打合せ等について

- ・出来るだけ回数を減らし、必要最小限の人数で行うこと。
- ・広い部屋で、三密を避け、換気すること。
- ・座席間は十分に距離を保ち配置すること。

(5) ロケハンについて

- ・アルコール消毒スプレー必携のこと。
- ・必要最小限の人数で行うこと。
- ・車内で三人掛けしないこと。一列二人で真ん中を出来るだけ空けること。
- ・1台で乗車が窮屈な場合は、もう1台配車すること。
- ・車内マスク必着のこと。
- ・窓を開け換気すること。
- ・ロケハン先でも、建物等に入る前は先方が見ている前でアルコール消毒し、礼儀正しくし、マスク必着し、不必要に物に触らないこと。

(6) 衣裳合わせについて

- ・必要最小限の人数で行うこと。
- ・広い部屋(プレハブ2F衣裳倉庫等)で三密を避け、換気して行うこと。
- ・他者とは十分に距離を保つこと。
- ・メイク、衣裳、持道具係等、キャストに触れる作業をする場合は、マスクを着け、基本的に使い捨て手袋を使用し、毎回手指を入念にアルコール消毒すること。

(7) キャストの支度について

①メイク作業について

- ・一時に大勢の支度をしない。密を避け順番に行う。

- ・支度席の間隔を空ける。
- ・メイク道具はキャストごとに変えるか、アルコール消毒をしてから使う。
- ・マスクを着け、基本的に使い捨て手袋を使用し、毎回手指を入念にアルコール消毒を行うこと。

②衣裳着付け作業について

- ・一時に大勢の支度をしない。密を避け順番に行う。
- ・マスクを着け、基本的に使い捨て手袋を使用し、毎回手指を入念にアルコール消毒を行うこと。

(8) ロケ車輛等

- ・マイクロバスの乗車定員は三密を避けるためドライバーを除き 13 名以内とすること。定員オーバーの場合は別に車を用意すること。
- ・座席は必ず横席一つを空け座ること。
- ・車内マスク必着のこと。
- ・窓を開け換気すること。
- ・アルコール消毒液は常に携行し、乗車時・降車時はつねに消毒を行うこと。

(9) ロケ場所にて

- ・時節柄、寛大な心で協力して頂いているロケ先に対し、細心の注意と感謝を心掛けること。近所からのクレーム等に関しても出来るだけ迷惑をかけないよう細心の注意を払うこと。
- ・ロケ先では、建物等に入る人数は必要最小限とし、入室前は先方が見ている前でアルコール消毒し、礼儀正しくし、マスク必着し、不必要に物に触らないこと。
- ・換気出来る場所では、換気を心掛けること。
- ・ロケ撤収時、先方が見ている前で、スタッフが触れたドアノブ等をアルコール消毒液を含ませた布で拭き取ること。
- ・屋外の開けた場所等で、ソーシャルディスタンスを確保出来る場合は、熱中症予防のため、マスクをはずしてよい。
- ・現場に非接触型検温器とアルコール消毒液を用意するが、出来るだけマイ体温計を持参すること。
- ・撮影中の昼及び夕方の検温で 37.5℃もしくは明らかに平熱より高い場合、製作担当に報告の上、日陰などで休んで改めて検温し直すこと。それでも体温が下がらないときは、熱中症の可能性も考えて業務を停止し、製作担当の指示に従うこと。

(10) ステージ・所内撮影について

- ・ステージ内や現場へ入る前に必ず手指をアルコール消毒すること。
- ・シーン替わり等、タイミングをみて大扉や窓を開け換気を心掛けること。
- ・出来る限り他者との距離を空けること。

(11) 現場でのキャストへの気遣いについて

- ・メイク、衣裳、持道具、録音部係等、キャストに触れる作業をする場合は、マスクを着け、基本的に使い捨て手袋を使用し、毎回手指を入念にアルコール消毒を行うこと。
- ・ワイヤレスマイクの着脱にも気を使うこと。マイクのアルコール消毒をガーゼ等ですてからキャストへは付けること。

(12) 撮影機材・照明機材・録音機材等について

- ・出来るだけ、複数のスタッフが同じ機材に触れないように心掛けること。
- ・使用前、休憩時、使用后等、適宜アルコール消毒を心掛けること。
- ・特機の使用も出来るだけ控えること。

(13) 現場ベースのモニター前について

- ・映像トランスミッター等を利用し、不必要にモニター前にたむろせず、他者との距離を空けること。
- ・必要スタッフのみチェック用に利用すること。

(14) トランシーバーについて

- ・一人一機専用とし、撮影現場での貸し借りはしないこと。使用前、使用後はアルコール消毒すること。

(15) 茶桶について

- ・水分補給は必須のため、今までとおり現場には茶桶は用意する。
- ・コップの使い回しは厳禁。
- ・蛇口コックに触る前に手指のアルコール消毒すること。
- ・紙コップも用意するが、個々のスタッフでのマイボトル、マイ水筒の携行を推奨する。

(16) 現場での飲料や食べ物、菓子等について

- ・キャスト等からの差し入れは原則として遠慮すること。
- ・食べ物、菓子等をテーブル上に並べ置きしないこと。
- ・コーヒー等飲み物の提供もしないこと。
- ・ツナギは、個々に包装されたものに限るが、手にとって選ぶことは避けること。
- ・現場での劇用キエモノに関し、キャストが口にすることは特に衛生管理を心掛けること。

(17) 早朝作業、深夜作業、長時間作業について

- ・疲労が蓄積されると免疫力が低下するので、出来るだけ避けること。

(18) 所内・食堂、喫茶室について

- ・所員食堂は、十分にソーシャルディスタンスを確保して利用すること。(テーブル上、仕切板設置済)

- ・昼食帯は混雑をなるべく回避して利用すること。

感染時対応

・スタッフ・出演者は、コロナ発症の疑い、体調不良が発生した場合、感染対策スタッフ・プロデューサー・製作担当に報告し、即時、管轄保健所、医療機関と連絡を取り指示に従う。感染対策スタッフ・プロデューサーは、状況を速やかに各社上長へ報告し、対応を協議する。

- ・上記体調不良のスタッフは、医師の診断を受け、新型コロナ感染ではないことが確認されるまでは、作品制作に参加できない。

- ・その確認は、医師の診断書またはそれと同等の書類をもって確認とする。